

令和 7 年度 学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	中学 4	学校名	銚田第一高等学校附属中学校						課程					学校長名	飯山 美都子			
教頭名	池野 雪巖												事務（室）長名	小松崎 友洋				
教職員数	教諭	1 0	養護教諭	1	常勤講師	1	非常勤講師	1	実習教諭、実習講師、実習助手		1	事務職員	5	技術職員等	4	計	2 3	
生徒数	1 年				2 年				3 年				合計				合 計	
	男		女		男		女		男		女		男		女		ク ラ ス 数	
	2 0		2 0		2 0		2 0		2 0		2 0		2 0		2 0		3	

2 目指す生徒像

○思いやりの心や感動する心、挑戦する心を持ち、協働して物事に取り組める生徒 ○確かな学力と広い視野を持ち、主体的に課題解決できる生徒
○高い志をもって仲間たちと切磋琢磨し、充実した学校生活を送れる生徒 ○地域を活性化し、地域社会に貢献できる生徒

3 現状分析と課題（数量的な分析を含む。）

項目	現状分析	課題
進路支援	○ 併設型中高一貫教育の特色を生かし、高等学校との連携を密にすることにより、個性や能力の一層の伸長を図る。 ○ 大学への進学を軸とした目標に向け、生徒それぞれが意識していけるように6年間を活用した段階的な進路学習を施していくことが肝要である。	・高校へ進学した内進生の状況を分析し、基礎学力の定着、上位層への指導等の枠組みを改善する必要がある。 ・総合的な学習の時間をとおして「探究学習」を深め、自分の将来を見通した進路やキャリアについて主体的に考える力を育成する必要がある。
学習指導	○ 習得した知識を活かした主体的・対話的で深い学びの実現と	・基礎的な学習内容の理解と定着を第一の目的とし、

別紙様式 1 (中)

	確かな学力を育成するため、次のような取り組みを行う。 ・教育課程の特例を活かした先取り学習と授業時数増を実施。 〈先取り学習〉高校の数学・英語の内容の一部を先行実施する。 〈授業時数増〉標準授業時数 29 時間（週あたり）のところを 1 週 34 時間分の授業を実施する。 ・国語・数学・英語において、ティームティーチングや少人数制による学習を展開。生徒の学びの実態に応じて、基礎学力の定着と思考力・判断力・表現力等の育成を図る。	生徒の到達度を把握しながら、先取り学習の計画・実施をする必要がある。特に授業進度が速まることにより、学習が遅れがちな生徒への個別の対応が求められる。 ・教科の特性や生徒の学習実態に応じて、少人数制学習やティームティーチング等の学習形態を工夫し、柔軟に対応する必要がある。
特別活動	○ 異年齢交流の取り組み 文化祭や生徒総会、クラスマッチなどの学校行事、総合的な学習の時間等において実施。 ○ 運動部、文化部の中から選択し、生徒が部活動を行っていく。 ○ キャリアパスポートの目的を達成するために、Classi のポートフォリオ機能の効果的活用を進めている。	・学校行事への主体的な参加や学級活動・委員会への自主的な取り組みにより、グローバル社会に適応できるコミュニケーション能力や社会性の育成が必要である。 ・部活動においては、種目が限られた中でも、生徒の満足感を得られる活動内容が必要である。 ・端末の操作に関しては、生徒の経験に差があるので、手際よく使えるようにしていくことが大切である。
生徒支援	○ 豊かな人間性やコミュニケーション能力の育成 ・生徒が企画運営する他学年と関わる機会を定期的に設け、全校生徒の交流が活発化するように支援している。 ・複数担任制を導入することにより、生徒一人一人についてきめ細かな対応ができるようにしている。 ・年に複数回生徒面談を取り入れ、生徒が自己肯定感を感じられるよう声かけを行うと同時に生徒指導上の諸問題の早期発	・異なる文化を背景にもつ生徒たちが集まっている中、寛容の態度をもち、好ましい人間関係を構築していくことが大きな課題である。言動や行動を注視し、内面的な手立てが必要な生徒に、各部署と連携して 指導・支援していく必要がある。 ・全職員で共通理解のもと統一した指導の徹底を図る必要がある。

別紙様式 1 (中)

	見を促すことで、多感な発達段階を支援している。	
開かれた学校	・学校ホームページの定期的な更新による情報発信をおこなう。 ・各種役員会や学校評価アンケートを活用し、家庭・地域との連携を図る。	・ホームページの更新体制を整え、更新頻度を上げるとともに、家庭・地域からの意見を効果的に聴くことができる広聴活動の工夫が必要である。
働き方改革	・令和6年度時間外在校時間の職員月平均の値は、前年度比で減少してきてはいるが、45時間に迫る月があった職員もいる。校務のより一層のスリム化や効率化、平準化の余地は残されている。また、職員個々の働き方についての意識にばらつきがあるのが現状である。	・適材適所の校務分担を行い、校務の負担感を減らすとともに、職員間が協同して業務に取り組む体制を構築する必要がある。さらに、職員の「ワークライフバランス」への意識を向上させ、働き方の意識改革を図る必要がある。

4 中期的目標

○ 確かな学力を身につけさせ、主体的・対話的で深い学びの実現につなげるために教科指導をさらに充実させる。 ○ 6年間を見通したキャリア教育により、自己の生き方や在り方に対する考えを深め、生徒の多様な希望に応える指導体制を充実させる。 ○ 探究的な活動や体験的な活動に重点をおいた教育を展開し、様々な課題に向き合い、挑戦する力を育む。 ○ 学校行事や部活動・特別活動をととして、主体性や豊かな人間性を育み、社会に貢献できる人材、グローバル社会で活躍できる人材を育成していく。 ○ 広報活動を充実させるとともに、家庭・地域社会との連携を図り、保護者・地域社会の期待に応える学校づくりを進める。 ○ 働き方改革を推進し、教職員のタイムマネジメント力が向上することで、一人一人が活力にあふれ、充実した教育活動が実践できるようにする。

5 本年度の重点目標

重点項目	重点目標
基礎学力・授業の質の向上	・「単元テスト」の特性を活かし、学習習慣の確立、基礎学力の定着を図る。 ・知識の習得をもとに、思考力・判断力を育み、「自ら課題を発見し、解決する力」の向上を図

別紙様式 1 (中)

	る。 ・授業力向上のため、教員間の相互授業参観と校内授業研究を推進し、職員の指導力及び授業の質の向上につなげる。 ・指導力向上のため、職員が教材研究や自己研鑽に努める。
個に対応した指導の充実	・生徒の学習状況を適切に見極め、指導方法・指導内容を工夫し、少人数学習の特性を最大限に活かす。 ・特別な支援を必要とする生徒の指導に対応する研修会を実施し、組織的対応を図る。 ・I C Tの適切な活用により、個別最適な学びを推進する。
進路意識・進路実績の向上	・中高一貫教育を基盤として、職員が指導力を高め、生徒の進路意識高揚や希望進路実現につなげる。 ・各学年の進路行事の意義を十分に指導し、自己の在り方や生き方について考えさせる。 ・生徒との個別面談を充実させ、進路目標を明確化させると共に、悩みや不安に寄り添う時間とする。 ・進路に関する講演などで収集した正確な情報を進路指導に活用する。 ・大学進学を踏まえ、基礎学力の定着を図りつつ、成績上位層への指導を工夫する。
特別活動・部活動の一層の活性化	・学校行事への主体的な参加を促し、学級活動や委員会の活動にも主体的に取り組み、社会に貢献できる人材、グローバル社会で活躍できる人材を育成する。 ・部ごとの活動目標を明確にし、目標に沿った生徒の主体的な活動を支援する。 ・キャリアパスポートを効果的に活用するために、生徒自身の足跡をきちんと残せるように指導する。
マナーや規範意識の向上	・制服に係る議論等とおして、生徒が自ら考え、率先してルールやマナーを順守しようとする態度を育てると共に、全職員が共通理解をもって指導にあたる。 ・異学年交流をとおして、生徒の自己有用感を高めることにより、規範意識の向上を図る。

別紙様式 1 (中)

	・ 全体的な取り組みと合わせて、生徒一人一人の特性や発達段階に応じた支援を図る。
学校評価の推進	・ 自己評価、外部評価の内容を工夫し、適切な評価方法・評価対象等を検討する。 ・ 各種委員会や学校評価アンケートをととして家庭・地域社会の本校への要望や期待を把握する。 ・ 学校ホームページを定期的に更新し、保護者目線を基盤にして、学校活動を活性化させる。
働き方改革	・ 時間外在校時間の職員月平均を 35 時間以内にする。 ・ 「働きがいを感じている」と答える職員 100%を目指す。 ・ 学校行事や教育活動の見直しを図り、目的と目標を明らかにした効果的で効率的な教育活動を実践する。 ・ I C Tや校務支援システムを積極的に活用し、校務事務の効率化を図る。 ・ 日常的なコミュニケーションを大切にし、同僚性の向上と風通しのよい職場づくりをめざし、協働して業務に取り組める体制を整える。
授業改善	・ 相互授業参観を活性化させ、職員同士が授業の改善点について日常的に話し合い、授業改善を推進する。 ・ 生徒による授業評価における「この授業をととして、知識や技能(技術)が身に付いた」、「この授業をととして、考えたり表現したりする力が身に付いた」の質問項目で、肯定的評価 80%以上を目指す。